

2025年6月11日

ヘルシンキ共同声明

フィンランド・ヘルシンキで開催された2025年国際看護師協会（ICN）会員協会代表者会議（CNR）において、ICNに加盟する140の国・地域（137の国・地域）を代表する各国看護師協会のリーダーが、世界の看護職が直面する喫緊の課題を取り上げた。

本共同声明において：

1. ICNは、看護への投資と支援を拡大すべきという説得力のあるエビデンスに対処するための即時の行動を要請する－看護は単なるコストではなく、未来への賢明な投資である。
「[2025年 世界の看護](#)」（2025 State of the World's Nursing; SOWN）報告書や、「[ICN各国看護師協会（NNA）会長調査（ICN survey of NNA Presidents）](#)」など、多くの報告書が懸念すべき結果を示している。「[ケアの経済力](#)」や「[看護師のウェルビーイングの向上が経済を支える（Caring for Nurses Strengthens Economies）](#)」といったその他のICN報告書では、看護の経済的価値を示す説得力のあるエビデンスが示されており、保健医療アウトカムを改善し、経済を強化し、より強靱な社会を構築するために、看護師への喫緊の投資の必要性が指摘されている。2025年CNRは、ICN「[変革のための憲章（Charter for Change）](#)」に概説されている10の政策行動へ責任をもって取り組むことを再確認した。
2. ICNは、公正な賃金、適正な労働条件、協力的でポジティブな職場文化、さらに効果的な業務量の管理と効率化対策を講じることにより、安全で持続可能な職場環境づくりを求める。看護労働力計画は、安全な職員配置を確保するための職員配置モデルに取り組み、優れた保健医療サービスの提供に不可欠な看護師の定着と倫理的な採用を重視しなければならない。私たちは、いかなる環境においても暴力に対するゼロ・トレランス（毅然たる対応方式）を含め、保健医療システムが看護師の身体的・精神的健康をどのように尊重し、育み、保護するかについて再考しなければならない。看護師が単に職務を遂行するだけで、健康やウェルビーイングが損なわれるようなことがあってはならない。

3. ICNIは、保健医療人材の国際採用に関するWHO世界実施規範（WHO Global Code of Practice on the International Recruitment of Health Personnel）の強化を求める。2025年SOWNは、国や地域によって看護師の分布が極めて不平等であることを示している。不公平な国際移動のパターンや、保健医療システムが脆弱な国からの非倫理的な看護師の採用は、不平等を悪化させている。豊かな国が他所から看護師を受け入れるのであれば、代償として何らかのリターンを返さなければならない。2025年CNRは、看護師のいかなる採用においても、相互主義へ責任をもって取り組むことを促している。これには、看護師を失う脆弱な送り出し国への補償と、強化され法的拘束力のある規範の確立を要請する。

4. ICNIは、保健医療従事者、患者、保健医療施設の保護を確実にするために、国際人道法の遵守を要求する。[紛争下における保健医療保護連合（Safeguarding Health Care in Conflict Coalition）](#)の最新の報告書によると、2023年以降、保健医療に対する攻撃は15%増加している。これを受け、CNR代表者は、保健医療人材、患者、保健医療施設に対するすべての攻撃を強く非難する決議を採択した。また、すべての政府と武力紛争当事者に対し、保健医療従事者、患者、保健医療施設、民間人を保護するための国際人道法に基づく義務を完全に履行するよう求めた。ICNIはさらに、人道支援への妨げのないアクセスを求める。本決議は、最も危険で困難な状況下でケアを提供し続ける看護師や保健医療従事者を称賛し、連帯するものであり、平和を提唱し、紛争や災害の影響を受けた看護師を保護・支援し、あらゆる場所での保健医療の中立性と尊厳の促進に関するICNIの確固たる立場と揺るぎない責任をもって取り組むことを再確認するものである。看護師は、健康を生み出す存在であり、同時に平和を築く存在でもある。

5. ICNIは、世界規模で看護の規制、教育、専門職の能力開発の強化を提唱している。強固で透明性が高く、十分な資源を配分された看護規制の重要な役割は、患者安全、保健医療労働力の持続可能性、および保健医療システムに対する国民の信頼の基盤を成すものである。ICNI CNRは、改訂版「ICNI看護の定義」を反映し、専門職基準を保護し、患者安全（患者の選択を可能にする文化的に安全な実践を含む）を確保し、看護師とその支援対象となる人々の権利を支持するための、各国の看護法および規制枠組みの確立と強化を求めた。CNRはまた、必要とされる地域で看護師の自立した供給を可能とするため、教育能力の拡大が喫緊の課題であることを強調した。CNRは、各国において、看護師になるためには学位取得を目指すことが重要だと確信している。また、各国は、教育や継続的専門能力開発

プログラムへの妨げのないアクセスを保証しなければならない。このような措置は、看護師の定着を図るとともに、将来のケア提供の変革を実現するために必要な実践において即戦力となる看護師を育成するために必要である。

6. ICNIは、看護師が今日および将来の健康上の課題に対処する上で、独自の立場にあると確信している。具体的には、加速するデジタル環境の導入と適応、人間同士のつながりを維持するための配慮あるテクノロジーの活用、気候変動による健康への影響の検出と対処、保健医療システムの変革において中心的役割の発揮が含まれる。2025年CNRでは、プライマリ・ヘルスケアのアプローチを含む、看護師主導のイノベーションとケアモデルを拡大することの重要性を強調した。今こそ、看護師リーダーやアドバンスト・プラクティショナーの力と影響力を活用し、適切な資金を提供し、人々を中心とした看護師主導のケアに転換する時である。

7. ICNIは、看護リーダーシップの重要性を確認し、看護リーダーが意思決定において実質的な力と権限を持つよう求める。2025年CNRは、看護師の専門的な成長とリーダーシップの機会を創出・支援する必要性を強調した。これには、アドバンスト・プラクティス・ナーズの役割の拡大や、キャリアアップの明確な道筋の確立が含まれると強調した。CNRは、国内外で看護師を代表し、擁護し、支援する重要な存在として、また、看護職が直面する課題に取り組み、すべての保健医療を向上するため、各国看護師協会の強化を呼びかけた。ICN 会員は、世界が緊急に必要としている次世代の看護師リーダーをエンパワメントするため、看護学生やキャリア初期の看護師との連携に尽力する。